

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 3 日現在

機関番号：16201

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23531204

研究課題名(和文) ビジュアル・ツールを活用した創作文指導の開発的研究

研究課題名(英文) Developmental study of creative writing instruction which utilized the visual tools

研究代表者

山本 茂喜 (YAMAMOTO, SHIGEKI)

香川大学・教育学部・教授

研究者番号：00182626

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円、(間接経費) 660,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ビジュアルツールの活用による創作文指導の新たな方法を 創作文(特に物語)自体の構造的分析和理解、ストーリーマップを初めとする個々のビジュアルツールの特性の分析と把握、学習者の反応と生産された表現物の分析と考察、の三点から捉えようとするものであり、それに基づきビジュアルツールをシート化した教材と、指導理論・指導方法を一体とした指導書の開発を目指した。

創作文の着想段階における思考マップ、構想段階におけるストーリーマップや設定マップを活用し、読解と表現の双方から創作文の仕組みを理解、誰もが主体性に表現を楽しむことができる学習プログラムを開発、その指導実践のための指導書を編纂、公刊した。

研究成果の概要(英文)：This research tends to catch the new method of creative writing instruction by practical use of a visual tools from the following three points. 1. Structural analysis of creative writing (especially tale) itself and an understanding 2. Analysis of the characteristic of each visual tools and grasp 3. Student's reaction which are made into the start, and analysis of the produced expression things. Based on them, development of the teaching materials, and the teacher's manual which made instruction theory and a teaching method one was aimed at. He utilized the thinking map, and the story map and setting map in a conceptual phase in an idea stage of the creative writing, and understood the structure of the creative writing from the both sides of reading comprehension and expression, and it developed the learning program to which everyone can enjoy expression in autonomy. The teachers' manual for the instruction practice was edited and published.

研究分野：教科教育学

科研費の分科・細目：基盤研究(C)

 キーワード：創作文 ビジュアルツール ストーリーマップ 物語論 思考ツール グラフィックオーガナイザー  
ナラトロジー 国語科教育

## 1. 研究開始当初の背景

新指導要領が告示され、PISA調査におけるキー・コンピテンシーに代表される、いわゆる「新しい能力」観に基づく教育が課題となる昨今、国語科においては、特に「創作文」の指導が重視される場所である。

なぜなら、自己を表現し、発信していくことは、キー・コンピテンシーに言うところの「相互作用」としての言語力の基盤となる能力に他ならないからである。また、創作者の立場に立ち、様々なジャンルの文章表現を体験することは、PISA型読解力の志向する場所である、いわゆるクリティカル・リーディングの基盤となる観点を体得することが期待されるのである。

これまでの国語教育の歴史的遺産である「書くこと」の教育における理論的・実践的蓄積を踏まえながら、新たな創作文の体系的な指導法の開発が急務と考えた。

例えば、アメリカにおいては、クリエイティブ・ライティングとして、論理的な文章法とともに二つの柱として重要視され、教材・教授法の開発も、一定の水準に達している。

特に、その教材開発においては、1990年代より、様々なビジュアル・ツールの工夫がめざましい発展を見せ、特に物語論（ナラトロジー）や認知心理学における物語文法の物語の構造分析に基づき、物語の構造を簡明に一般化したストーリーマップは、多様に開発が進んでいる。

また、その教授法においては、現実の創作・編集・出版という過程を取り入れ、学習者に主体的に創作に取り組ませ、相互に発信しあうライティング・ワークショップが開発され、広く普及している。

一方、我が国では、大村はまの単元学習を初めとする、創作文の着想面の指導に関する先行研究は蓄積されているが、創作における抵抗感の緩和や着想面の支援にとどまっていることは否めない場所である。理論的な

基盤に基づく構想・構成・記述指導面の教材・教授法の開発においては、なお「起承転結」や、「設定・展開・山場」等の伝統的な枠組みにとどまり、いまだ確立されたものが見られない。

そこで、本研究では、学習者主体の創作活動であることを十分考慮し、特に物語論を基盤としたビジュアル・ツールの活用に基づく、構想から記述に至る、創作文の学習プログラムの開発が必須であると考えた次第である。

## 2. 研究の目的

「創作文」とは、これまで「創作」「創作的な活動」「フィクション」などと呼ばれてきた、創造的な「書くこと」を指す言葉である。この研究では、初等・中等教育の国語科における「創作文」の指導において、特に、ストーリーマップを初めとする、ビジュアル・ツール（図解により、思考を視覚情報化したもの）を開発し、構想から記述に至る、一貫した創作文指導の学習プログラムを開発することを目的とする。ストーリーマップとは、物語論（ナラトロジー）や認知心理学における物語文法の理論に基づき、物語の一般的な構造を簡潔な視覚情報にしたマップであり、我が国ではまだ教材化されていないツールである。

## 3. 研究の方法

我が国における創作指導の先行文献について、小学校・中学校の教科書を含めて、広く調査し、歴史的な変遷について整理する。英米におけるクリエイティブ・ライティングの現状について、主として文献およびHPの調査をもとに整理・分析する。

マッピングを初めとするビジュアル・ツールの活用に関する内外の先行研究と実践について、国語科に限らず、他教科および教科横断的学習についても調査し、整理・分析する。

以上の分析検討をもとに、創作文指導のためのビジュアル・ツールの活用について、その

原理と方法を明確化する。

に基づき、創作文のための系統的なビジュアル・ツールを開発する。

香川大学教育学部附属高松小学校、同中学校等において創作文の学習単元を構想し、研究授業を実践する。

研究授業についての記録および学習者の表現物を詳細に分析し、その有効性を検証する。改良を重ね、創作文指導の学習プログラムを開発・公開し、広く公開する。

#### 4. 研究成果

本研究は、ビジュアルツールの活用による創作文指導の新たな方法を 創作文（特に物語）自体の構造的分析和理解 ストーリーマップを初めとする個々のビジュアルツールの特性の分析と把握 学習者の反応と生産された表現物の分析と考察、の三点から捉えようとするものであり、それに基づきビジュアルツールをシート化した教材と、指導理論・指導方法を一体とした指導書の開発を目指した。

その結果、創作文の着想段階における思考マップ、構想段階におけるストーリーマップや設定マップを活用し、読解と表現の双方から創作文の仕組みを理解、誰もが主体性に表現を楽しむことができる学習プログラムを開発、その指導実践のための指導書を編纂し、東洋館出版社より公開した。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計5件)

山本茂喜，ストーリーマップの読むこと・話すことへの活用の方法 - 「問題・解決」構造に基づくビジュアル・ツールの有効性について - ，香川大学国文研究，38，2013，pp. 1 - 14，査読無

山本茂喜，川田英之，ビジュアル・ツールの活用と交流による創作指導の実践的研究，香川大学教育実践総合研究，26，2013，pp. 27 - 40，査読無

山本茂喜，川田英之，中学校における物語創作の方法と意義(1)ライティング・ワークショップを用いた授業の構想，香川大学教育実践総合研究，25，2012，pp. 1 - 12，査読無

山本茂喜，川田英之，中学校における物語創作の方法と意義(2)ライティング・ワークショップを用いた授業の構想，香川大学教育実践総合研究，25，2012，pp. 13

- 26，査読無

山本茂喜，物語の「構造」を活用する創作文指導について 「問題・解決」構造とストーリーマップ ，月刊国語教育研究，483，2012，pp. 50 - 57

〔学会発表〕(計7件)

山本茂喜，山村勝哉，小学校国語科における思考ツールの活用についての実践的研究，第14回学部・附属学校園教員合同研究会，香川大学教育学部，2014.02

山本茂喜，川田英之，大西小百合，中学校国語科における「思考ツール」を使った読みの授業の実践的研究，第14回学部・附属学校園教員合同研究会，香川大学教育学部，2014.02

山本茂喜，川田英之，大西小百合，対話・交流を活用した「創作的な活動」についての実践的研究，第13回学部・附属学校園教員合同研究会，香川大学教育学部，2013.02

山本茂喜，山村勝哉，ビジュアル・ツールの活用と交流による創作指導の実践的研究，第13回学部・附属学校園教員合同研究会，香川大学教育学部，2013.02

山本茂喜，物語の創作指導について，第37回香川大学国文学会シンポジウム，香川大学国文学会，香川大学教育学部，2011.12

山本茂喜，川田英之，大西小百合，中学校における物語創作の方法と意義，第12回学部・附属学校園教員合同研究会，香川大学教育学部，2012.02

山本茂喜，山村勝哉，「公共広告創作」による課題解決型国語学習の実践的研究，第12回学部・附属学校園教員合同研究会，香川大学教育学部，2012.02

〔図書〕(計1件)

山本茂喜，魔法の「ストーリーマップ」で国語の授業づくり，東洋館出版社，2014，203

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

無

6．研究組織

(1)研究代表者

山本 茂喜 (YAMAMOTO Shigeki)

香川大学・教育学部・教授

研究者番号：00182626

(2)研究分担者

無

(3)連携研究者

無